

オリガミアンだより

第60号

2021年11月8日発行

大空への飛翔を待つペガサス軍団

11月2日に行われた定例会で榊本さんが「ペガサス」の折り方を丁寧に指導してくれました。ペガサス、いよいよ飛翔にGOです。以下に折り方を紹介（翼部分を除く）。



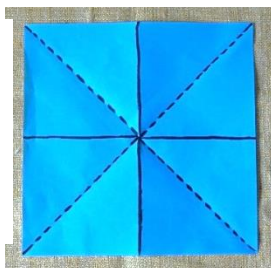
榊本さんが育て上げたペガサスたち

折り紙で大切な「控える心」 時代劇で「控えよ!!」というのとは、ちょっと意味合いが違います。折り紙で「控える」というのはぎりぎりまでビッシリ折らないということ。「控えない」と折り重ねるうちに分厚くなって収拾がつかなくなる恐れが出てきます。ペガサスも例外ではありませんので、ご注意ください。

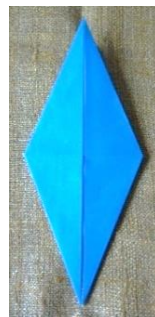
頭部と前脚

凛々しく可愛いペガサスに仕上げるには**耳がポイント**。しっかり工夫してみてください

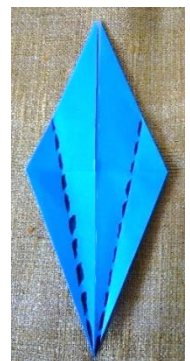
鶴の基本への入り口。「胴体と後脚」も同じ



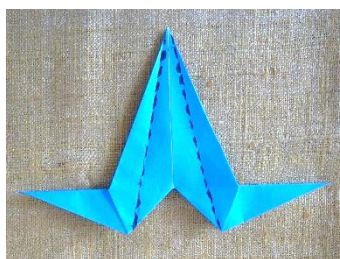
省略⇒



割れ目がある方を上にして下部に図のような折れ線を入れる。裏も同じ。前脚を折る時の基準ラインとなる。中割れ折りをして前脚の基礎をつくっていく



今つくった折れ線をつた広げる。折り紙の上下を逆にする。先ほど折った基準ラインと前脚が一直線になるように整える



内側へ折り込んで前脚をつくる。さきほど折った基準線に合わせて脚の左右のラインが平行になる。左右同じ長さになるよう注意。**矢印のついた横ライン**を向こう側へ折る。ここが耳に化ける



頭頂部をくびれ部分まで折り返す。さらに先端部分の中へ折り込む。(将来、頭部になる)



頭頂部を外側にして二つ折り。残るは耳と、たてがみのみ。耳はいったん頭頂部の真ん中をへこませた後、細長い三角形をつくる気持ちで整える(2ページ上段の写真参照)



たてがみは下の紙と一緒に折る





正面から見た耳の理想形。馬らしさがぱっちり出ている



耳の形・参考（１）
トナカイの形をそのまま生かした。たてがみはない



耳の形・参考（２）
たてがみの形も良く見てください

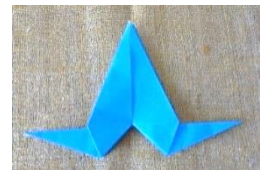
胴体と後脚

ここでのポイントは**尻尾**。大空を悠然と飛んでいるペガサスを想像しながら長さや太さを意識して折ってください

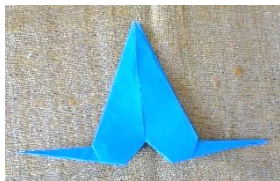


省略⇒

これが鶴の基本。ここまでは「頭部と前脚」と同じ。ペガサスづくりに入る前に20個、30個、同じものを作っておくと作業が効率的に進む



上下をひっくり返す。前脚を作る時に折った基準ラインは後脚では不要なので注意



前脚と同様に内側へ半分に折り込んで後脚をつくる



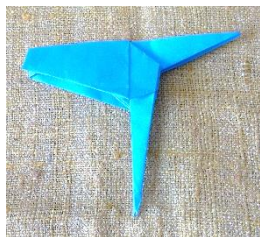
〇〇場で見かけるお馬さんの尻尾を思い出しながら長めに設定



点線で内側へ折る



さらに図のように折ることで尻尾の根元が少しすっきりする。この作業を怠ると、ずん胴状の尻尾になってしまい、ペガサスからいい顔をされない



内側へ畳む



尻尾の形を整える。大空を颯爽と翔んでいるイメージを大切に



頭部と胴体を糊付け・合体。胴長にならないように注意



課題は「より翼らしさ」の追究

頭部と胴体をクリアしてしまうと、どうしても気になってくるのが「翼」部分。「オリガミアンだより」第 58 号では天狗の翼を転用する方法をご紹介しましたが、もう少し折り目が多い方が断然カッコいいです。それも頭部や胴体と同じ1辺15㍓の紙を使って折り目が4～6あるものを折れないものでしょうか。

ここからが工夫の第二の山場です。

翼を接合して完成。これに竹の串を差すように接着、空の水槽に入れ、水槽のバックにはブルー系の紙を貼り付け、淡いライトを灯せば大空を自由に駆け回るペガサスが誕生。お友達にプレゼントすると喜ばれます

次回 11 月 16 日もペガサスを練習します。折り紙を 3 枚持って体験教室にいらしてください。

編集：「オリガミアン」代表 熊谷信哉